

Ritsumeikan Asia Pacific University



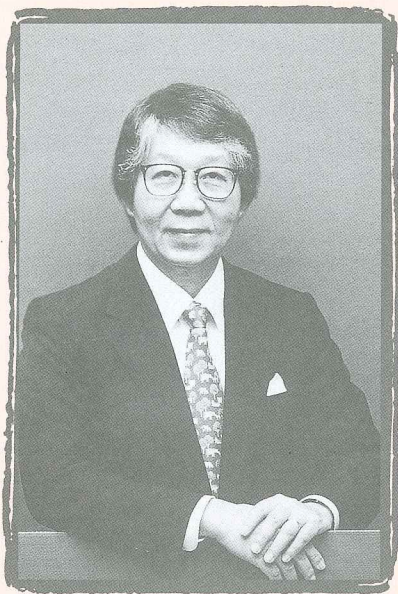
May 1999 vol.5

CONTENTS

- p1 トミー・コー教授よりAPUへのメッセージ
- p2 INTERVIEW キー・ブーコン所長「これからのアジア太平洋研究」
- p4 留学生受入れ行動 [タイ編] [インド編]
- p5 APU Q&A / 日韓高校教育交流フォーラム
- p6 「高校生APEC in九州」開催! / 「アジア太平洋懸賞論文・作品大賞」
- p7 大分・別府事務所だより / 工事進捗状況について
- p8 RITSUMEIKAN TOPICS

A JOURNAL REPORTING PROGRESS OF RITSUMEIKAN ASIA PACIFIC UNIVERSITY

シンガポール外務省大使 トミー・コー教授より 立命館アジア太平洋大学へメッセージ



「立命館アジア太平洋大学」を九州に創設する事業を開始されたことを慶ばしく存じます。50%が国際学生であるということは、それ自体、大学が国際的性格をもったものであることを確固たるものとします。日本は、アジア太平洋地域において、指導的役割を担っています。そのためには、日本はさらにいっそう国際的な国となり、世界に門戸を開くことが必要であります。新しい大学は、日本の国際化に貢献し得るものです。私は、立命館アジア太平洋大学のアカデミック・アドバイザーであることを、大変嬉しく思っております。

I congratulate the Ritsumeikan University for taking the initiative to establish a new Asia Pacific University in Kyusyu Island. The fact that 50% of the students will be non-Japanese will ensure that the University will have an international character. Japan has a leadership role to play in the building of an Asia-Pacific community. In order to play such a role, Japan must become more cosmopolitan and open to the world. The new University can contribute towards the internationalisation of Japan. I am very pleased to be an Academic Adviser to the University.

Professor Tommy T.B. KOH

profile Tommy Thong-Bee KOH

【プロフィール】 現在、シンガポール外務省の無任所大使で、アジア・ヨーロッパ財団理事長。「地球会議」(the Earth Council) のメンバー。

1971年から74年、シンガポール大学法学部長を歴任。1968年から71年、シンガポール常任代表としてニューヨークの国連に派遣され、同時に駐加高等弁務官の任命を受ける。1974年から84年、再び常任代表として国連に派遣され、同時に駐加高等弁務官、駐メキシコ大使も兼務。1984年から90年、駐米大使を歴任。1981・82年第3回国連海洋法会議の議長に就任。1990年から92年、国連環境開発会議の準備委員会および本委員会委員長に就任。1993年8月および9月、ロシア連邦・ラトビア・リトアニア・エストニアへの使節団を率いるため、国連事務総長より特命全権公使を任命。1994・95年、米国スタンフォード大学国際問題研究所の客員教授。1993年から95年、持続的発展に関する国連上級顧問に就任。

トミー・コー教授は、シンガポール大学で最高名誉学位(法学)を取得し、ハーバード大学で法学修士、ケンブリッジ大学大学院で学位(犯罪学)を取得された。また、1984年エール大学より法学の名誉博士号を授与された。その他、コロンビア大学、スタンフォード大学、ジョージタウン大学、フレッチャー法律外交スクールから各種の賞を授与された。また、1971年公職星章(the Public Service Star)、1979年公益功績メダル(the Meritorious Service Medal)、特別業績勲章(the Distinguished Service Order Award)などを授与された。1993年3月には、オランダ皇太子よりゴールデンアーク勲位の上級勲騎士(Commander in the Order of the Golden Ark)に任命され、日本商工会議所シンガポール財団(JCCI Singapore Foundation)から芸術賞および文化賞を受賞された。

KEE Pookong

キー・プーコン/紀 宝坤



ビクトリア工科大学教授
(オーストラリア)
アジア太平洋研究センター所長

KEE Pookong教授は、オーストラリアを拠点にシンガポール、マレーシア、ハワイ（イースト・ウェスト・センター）を舞台に移動交流論を心理学・社会学・政策学の視点から実践的に研究する国際的研究者。

これからのアジア

——今日は、ビクトリア工科大学（オーストラリア）アジア太平洋研究センター所長のキー・プーコン先生にお出でいただきました。移民と多文化社会というテーマを中心にお話をお伺いしたいと思います。

KEE 今回は、アジア太平洋の発展の諸側面の研究について、お話できる機会をいただきたいへん喜ばしく思います。私の経験は個人的なものであり、読まれる方にとって、狭く非系統的なものに思えるかもしれません。これからのニューズレターにも、他の方々の見解が紹介され、様々な研究努力がアジア太平洋地域の国々における社会経済的、政治的、文化的変容の解明に貢献していくようになることを希望しています。

簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、中国南部からの移民の両親のもとにマレーシアで生まれました。初等教育を中華系学校で受け、英語で教育を行なう高等学校に進みました。その後、オーストラリアのアデレード大学で経済学、政治学と心理学を専攻しました。心理学でオナーズ学位（優等学位）を取得後、オーストラリア国立大学で博士号奨学金を得るまでは、マレーシアとシンガポールで働きました。

このような簡単な経歴紹介で、私の視点、学問の選択、キャリアそして仕事と住居の場所に大きな影響を与えたいくつかの要因について触れました。例えば、早期の中国語と英語の学習経験は、その当時重要な違いであった英語で教育を受けた華人と中国語で教育を受けた華人の違いを克服することに役立ちました。この違いはマレーシアとシンガポールの華人の価値観と行動を二分し、この影響はいまだに両国において見られます。ある意味で、この違いは中国的価値やアジアの価値、政治的大志に対するロイヤリティと対照的に、西洋化や英国的なものへの同一視と関係がありました。冷戦期において、前者は大陸中国での社会的、政治的改革への同一視を含んでいました。

マレー語が国語として強く奨励されると、この二言語、二文化的な資産はマレー語学習によって強化されました。これは、時には中国語と

インド系言語教育への冷遇を伴いました。日々のマレー語、中国語、インド系の言語と文化および、ヨーロッパの伝統への関わりは、異文化的生活への私の関心と能力を強化し、後年に多文化問題への研究と政策の発展のための強い基盤を提供してくれました。

——先生のご研究は、どういったテーマから始められたのですか。

KEE オーストラリアから戻って、はじめての仕事はクアラルンプール近くにある教護院のカウンセラーで、家庭、学校や仕事への適応に問題を持つ少年のケース・スタディーをしました。その後、当時シンガポール大学プキティマ・キャンパスにあった高等教育開発地域研究所という、東南アジア各国の教育大臣の傘下にあった機関で、1年間研究員となりました。研究員という職は、地域開発協力研究への素晴らしいステップとなり、東南アジア各国からの研究者達との永久の友情を育む機会となりました。

ここでの研究の関心は、スタディー・サーブス活動という大学生を農村地域での仕事に時間を費やすように勧めるプログラムでした。この活動は、その後ラテンアメリカとアフリカの一部で一般的になり、また中国の下放運動という知識人が地方の農民から学ばなければならないという運動にも似ていました。私の研究の焦点はマレーシアにあり、幸運にもクアラルンプールやベナンの農村開発や他の国家開発に関心がある若いマレー人の学者とコンタクトを取ることができました。

マレーシアに関する研究は、マレー系、中国系、インド系コミュニティの出生パターンに関するものでした。これは、その後のオーストラリア国立大学で取得した心理学の博士論文のテーマに関連しています。この研究は、オーストラリア国立大学の奨学金とフォード財団、ロックフェラー財団の人口開発政策計画の支援を受けることができ、マレーシアの3つの主なエスニック・グループ間の出生に対する価値観や行動、特に家族のサイズに関する際立った違い

をもたらした心理的、社会的、経済的、文化的要因を調査したものです。

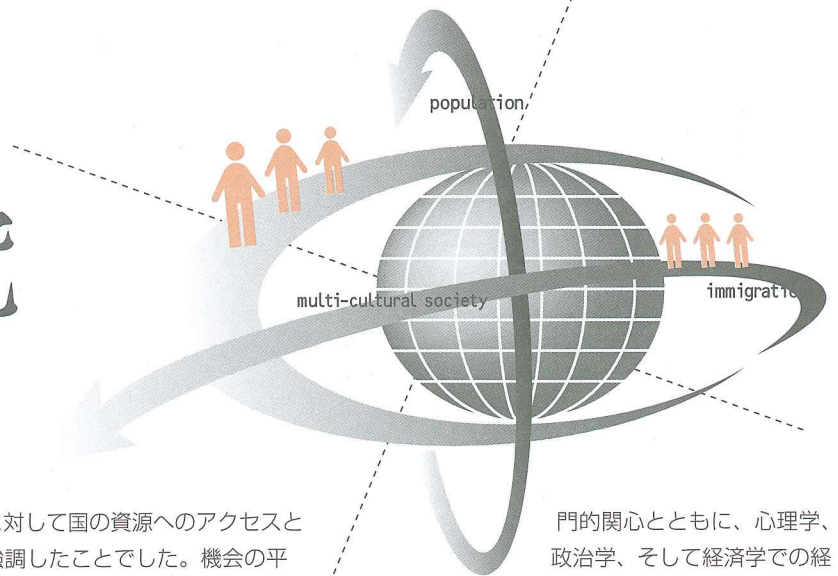
マレーシア半島部の都市と農村の研究は、教育水準、所得、職業、そして他の重要な社会経済的要因だけではマレー人の永続的に高い出生率と華人の低い出生率を説明するには不十分なものであることを、裏づけました。これらの結果は、ホノルルの東西人口研究所の心理学者、社会学者、人類学者そして人口統計学者やミシガン大学とオーストラリア国立大学の学者が組織した「一国を超えた価値および子どもの費用に関するプロジェクト」のもとでの多くの研究と一致していました。

——先生は、ハワイで人口問題の研究に従事されておりましたが、どういう課題が重要でしたか。

KEE 博士課程での研究を行なった後、1980年にハワイの東西人口研究所の研究員になりました。この研究所は、アジア太平洋地域における重要な研究教育センターとして活発に活動していた研究機関でした。中国系アメリカ人であるスタンフォード大学法学部教授の理事長就任と日本生まれの中国語能力を持つ韓国人の人口センター所長への就任は、この研究所が中国とのさまざまな重要な研究協力、特に人口問題の分野での協力をを行うことに寄与しました。

しかし、レーガン大統領が就任することによって、ワシントンの新政府は国内外で親出生主義や反人口抑制のスタンスをとるとともに、すぐに人口問題研究への資金を奪いました。このイデオロギーの変化は欧米に限られた訳ではありませんでした。すぐにマレーシアでも、マハティール政権のもとで大きな人口は国にとって良いという意見を支持し始めました。多くの東アジアと東南アジアの国々における急激な経済成長は、シンガポール、香港、台湾、日本、韓国に労働力不足をもたらすと共に、他の諸国を人口政策転換へと駆り立てました。これはアジアのいくつかの国々での家族計画や人口教育機関の改名を引き起こし、エイズなどの他の地球的問題が新しい人口研究のフロンティアとし

ア太平洋研究



て、出生減少に取って代わり始めました。

ハワイでの滞在は非常に価値のある経験でした。イーストウエストセンターで私は幸運にも人生をアジア太平洋地域の多様な社会の研究に費やしている多くのアメリカ人やアジア太平洋地域からの研究者と知り合うことができました。彼らの中にはアジア太平洋地域の言語と文化に関して深い知識を持っている人たちや、彼ら自身の人生において異文化間理解と平和に深く関わりを持っている人たちがいました。ハワイの風景の雄大さ、さまざまな先祖を持つ人々の美しさ、文化的多様性が生み出す活気は、異文化間学習と国際理解と交流の促進にとって理想的な場所でした。私がハワイで体験したような学習経験が別府湾を眺める丘に出現し、立命館アジア太平洋大学は多文化国際教育を展開するでしょう。

—— オーストラリアの多文化社会についての研究はたいへん重要なテーマですが、どのような背景のもとで行われ、どのような分野が重要とお考えですか。

KEE ハワイでの経験は、1981年の移民としてオーストラリアへ戻り、新しいオーストラリア多文化問題研究所での仕事に従事しました。それは、オーストラリア政府によって多文化社会を促進するために設置された連邦政府機関であり、私にとって相応しいものでした。研究所での5年間は、政策中心の研究に連邦、州、地方政府そしてアングロ・ケルティック的価値観の弱体化に反対するものを含むさまざまな圧力団体との折衝という新しい技術が必要であり、非常に挑戦的なものでした。研究所において、多文化教育、多文化放送、そして新規到着移民のための職業問題、住宅、司法援助、高齢者、子供、女性への援助を含む到着後のプログラムとサービスについてのさまざまな研究計画に携わりました。

この時期にはオーストラリアでの政権交代があり、研究所での仕事において、多文化政策への異なるアプローチが反映されました。これらの変化のうち重要な側面は、新しい労働党政権

が少数派に対して国の資源へのアクセスと公平さを強調したことでした。機会の平等に代わる結果の平等への重点は、異なるグループからなる社会のための差別修正政策の効果を巡る最近の議論を予兆したものでした。オーストラリア多文化問題研究所において、異なる政策アプローチと他の政治課題の両立という困難さは、新しく選出された労働党政権が前の自由党・国民党政権が設置したこの研究所を閉鎖する原因となりました。

メルボルン大学の応用経済社会研究所に所属した後、1989年に移った別の国の研究機関である移民と人口問題研究所が同様な道を進んだということは皮肉でした。その研究所は労働党政権によって移民に関する経済、社会、環境、国際的変化を研究するために設置され、研究成果は一貫して移民の長期的経済利益を明らかにしていました。この研究所は、移民が失業を悪化させ景気後退時に社会不安を引き起こすという意見を持つジョン・ハワード現首相率いる自由党・国民党政権によって、廃止されました。

このような展開は、政策目標を達成するための社会学・経済学における研究と応用の矛盾を際立たせました。それは政府、産業界、他の既得権益からの外部資金に頼っているすべての研究の脆弱さを裏づけ、価値観に左右されない社会科学の可能性についての議論を思い起こさせます。ある意味では広く受け入れ、証明可能なそして透明性のあるデータ収集の方法を使用することはそれらの困難を最小限にし、研究が政策と計画の公式化と評価を助けることを可能にしたいと思います。これは研究者の間の問題解決へのアプローチでの知識人の誠実さと専門家精神の必要性を求めています。

—— 先生はビクトリア工科大学のアジア太平洋研究センター所長の要職にありますが、そこでの研究動向と、先生が最近のご関心のある研究テーマについて、最後に教えてください。

KEE ビクトリア工科大学のアジア太平洋研究センターでの過去5年間は、特に楽しいものでした。ここでの仕事は、多くの個人的および専

門的関心とともに、心理学、政治学、そして経済学での経験と、この地域における比較

的広範囲な職業経験を使っただけの研究を可能にし、将来のアジア太平洋における成長と交流に影響を与えたいと思います。

特に、移民、観光、国際学生の移動などの国際間の人の移動について研究することができました。これらの分野での研究の多くは国際学生受け入れ側と目的国への影響に集中していましたが、このような移動の原因と過程の研究は、地域統合と相互依存の理解に直接寄与するという意味で重要です。

また、オーストラリアの発展過程において、アジア太平洋地域の近隣国との関係に影響を与えるさまざまな問題について積極的に研究し、オーストラリア政府に委託されたコンサルタント・レポートを作成しました。これらの発展する関係において重要な点は、オーストラリアのアジア太平洋コミュニティの成長、多様化と統合、アジア太平洋地域内での文化的に多様で、経済的に公平な社会としてのオーストラリアの持続的な成長です。

最近では、国際移民から起こった地球の家族、社会、文化、経済のネットワークに大きな関心を寄せています。今までの多くの研究は、経済的関係を含む中国人の移動、発展する中国人のアイデンティティ、東南アジアと東アジアの活気に満ちた中国人文化社会と太平洋岸の多文化の国々と中国との交錯についてでした。

これらの研究、特にコミュニティと国家を超えた比較関係に関する分野は、立命館アジア太平洋大学や相互依存関係にある世界の知識を増大させようとしている他の教育機関にとって、重要な研究分野であると思います。

—— 本日は、先生のアジア太平洋学に関する最新の研究内容、特に移民と多文化社会研究について、貴重なお話を伺うことができ、たいへん勉強になりました。本日は、どうもありがとうございました。

留学生受入れ行動

[タイ編]

タイは日本の1.4倍、約51万Km²の国土をもっています。国土はインドネシア半島の中部からマレー半島北部に広がっており、マレーシア、ミャンマー、カンボジア、ラオスと国境を接しています。タイには、約6000万人の人々が暮らしており、人口の95%は仏教徒です。

タイグループは2月1日より、約2週間にわたりタイを訪問しました。今回の訪問は通算4回目となります。今回はタイ西部および南部を中心に、シャム大学Twee副学長の全面的かつ強力な支援とその人的ネットワークの支援を受けて、計19の各地で名門と目されている学校を訪問しました。校長先生や教頭先生、進路指導の先生を訪問するとともに、訪問校数19校の内、16校で11年生（日本の高校2年生）を中心に延べ約1800名の学生に対して、APUの説明をおこないました。中には、420名の学生が参加した学校もありました。

説明はまず英語で行われ、続いてTwee先生によりタイ語に翻訳されましたが、英語での説明を理解し、英語で質問する学生もいました。質問内容は、①奨学金、②選考方法、③日本での生活、④進路・就職に集中しました。中には、「大学は制服ですか?」という質問に「特に決まっています。キモノでもいいですよ。」というやりとりで場内が笑いにつつまれるといったシーンもありました。最初は半信半疑で聞いていた学生達が、質問とそれに答える形のなかで次第にAPUに関心を寄せてくれることが感じられました。また、説明会終了後、学生と同様に最初は半信半疑だった先生方もAPUに大きな関心を持ってくれたことも感じられました。なかには、その場で別の学校にアポイントを取り付けてくれた学校もありました。

今後もタイからひとりでも優れた学生がAPUに入学することを目標に取り組みをさらに強化していきたいと考えています。



Thailand

[インド編]

APUが現地行動をしている国々の中で一番西に位置するインドは、文明発祥の地の一つでもあり、最古の歴史を持ち、その国土も南北、東西共に3000kmにも及び、人口が9億を超える連邦国家です。世界三大宗教の一つと言われる仏教でさえ、この国ではヒンズー教の一つとしてしか見なされていません。歴史・国土・人口・宗教は当然のこととして、文化・人種・風土・気候・政治・経済・社会・言語、これらのどれ一つをとっても、ひとことで言い表わせない多様性と歴史性をインドは持っています。

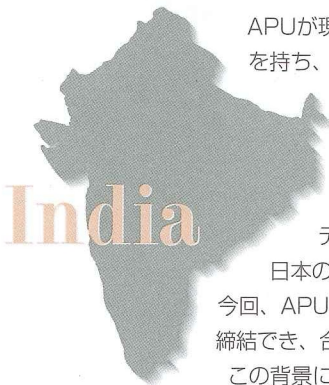
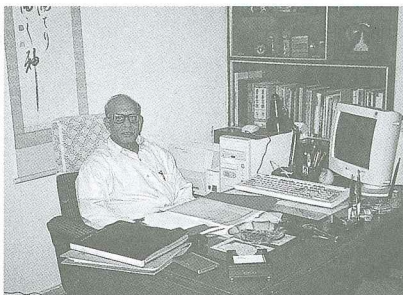
今回のインド現地行動は、2月9日から5日間の限られた日程であったため、高校訪問については、デリー市内の12年一貫教育を行っているPublic Schoolに絞って行いました。いずれの学校においても、日本の大学についての情報が皆無といってよい現状でした。しかし、定期的に送付し続けた資料と合わせて、今回、APUの理念や教育制度を直接説明することで、デリーを代表する名門Public School4校と学生推薦協定が締結でき、合計10校45名の推薦協定を結ぶことができました。

この背景には、現地リエゾンオフィサーとして昨年からの協力いただいているネルー大学前教授のVerma博士（写真）の全面的な支援があったからです。Verma博士は日本留学の先駆けであり、また、初の日印辞典の編纂もされた日本研究の先駆者でもあります。氏はネルー大学の定年退職に伴って、今後はインドと日本、特にAPUとの架け橋として、優秀なインドの若者にAPUの魅力を伝えたいと、ご自宅をAPUの現地事務所的にも提供して頂けることになりました。

冒頭にも述べましたとおり、インドは教育についても歴史的な宗教教育と民族教育に加えて、近代西欧式教育が導入され現在も複雑的で複雑な教育制度や体系が、10万を越える高校数の多さの上に存在しています。こういった国であるからこそ、一人でも多くの学生を受け入れたい。そんな国です。

Verma氏の連絡先は次のとおりです。

Dr. Satya Bhushan Verma
Visiting Professor of Research Center for Asia Pacific Studies,
Academic Advisor and Liaison Representative in India,
Planning Division for Ritsumeikan Asia Pacific University, Kyoto, Japan
Address: D-3/ 3585 Vasant Kunj New Delhi-110070, India
Tel: +91-11-6893630 Fax: +91-11-6122270
E-mail: vermasb@vsnl.com





(留学生受入れのための各国の高校や各種の機関との学生推薦協定締結も順調に進んでおり、各国では校長先生、進路指導の先生、父兄や学生にむけてのAPU説明会を催しています。説明会でよく出る質問を紹介します。)

Q1 APUの「アジア太平洋学部」および「アジア太平洋マネジメント学部」では具体的に何を学びますか？

A1：「アジア太平洋学部」では、広大なアジア太平洋地域の多様な文化、歴史、社会事情や自然環境などに関する基礎知識と、英語ならびにアジア太平洋地域の言語を理解し、駆使できる能力を核として、〈都市と環境〉〈情報メディア〉〈アジア太平洋と観光〉といった分野の専門知識の修得を目指します。

「アジア太平洋マネジメント学部」では、学部の専門教育において、マネジメントの具体的手法を〈ファイナンス&アカウンティング〉〈マーケティング〉〈プロダクション〉〈人材マネジメント〉の4分野に分け、各分野の基本的知識を広く学んだ上で、それぞれが関心を持つ分野において高度な専門性をもつことができる諸カリキュラムが編成されています。

Q2 APUで留学生を送るために、どのくらいのお金が必要ですか。

A2：大学へ納めなければならない費用は、入学時に10万円および年間学費の約100万円です。生活に必要な金額としては、1カ月約8~10万円くらいを目安して下さい。

Q3 APUには、学生のための寮はありますか？

A3：留学生は、新入生全員が大学の寮に入ることが出来ます。2年生以降は民間の宿舎へ移り、地域の人々と交流をしながら生活することとなります。

Q4 日本で病気やけがの場合、留学生のために医療費等を援助する制度はありますか？

A4：日本では、いざという時に高い医療費に困らないようにすべての人(日本に一年以上滞在する予定の留学生も)が国民健康保険に加入し、保険料

(1999年度 年額 15,400円)を支払うことが法律によって定められています。加入すれば、医療費の70%が国から補助され、さらに留学生は特別に、残り30%の内80%が補助(後日返金)されるので、自己負担は実質6%となります。また、大分県には国民健康保険料を補助する制度があります。(1999年度は1/2を補助しています。)

Q5 APUの詳しい資料は、どうやって入手できますか？

A5：下記、APU開設事務局にお問い合わせ下さい。

立命館アジア太平洋大学開設事務局 国際課
日本国京都市北区等持院北町56-1
TEL. +81-75-465-8370
FAX. +81-75-465-8371
Eメール：ml-apu4u@ml.ritsumeai.ac.jp
ホームページ：http://www.apu.ritsumeai.ac.jp/

日韓高校教育交流フォーラム



1999年1月22日(金)から24日(日)にかけて、韓国の学生推薦協定校51校の校長等と大分県の20校の校長を中心として「日韓高校教育交流フォーラム」が大分県別府市において開催されました。

22日は、坂本和一立命館アジア太平洋大学学長予定者の主催者挨拶で幕をあげ、大分県と別府市から県・市の概況説明を得、また7名の高校長からも発言をいただき、成功裏に終えることが出来ました。参加者は、翌23日はAPUの建設現場の視察および大分県・別府市の説明で施設を見学し、感動を新たに24日帰国の途に着きました。

国内外からのAPUへの大きな関心・期待が感じとれるフォーラムでした。



【日韓高校教育交流フォーラムでの発言者】

原尻正信(大分舞鶴高等学校長)、李 鐘英(大元外国語高校長)、小山康直(大分高等学校長)、金 鳳吉(慶南高校長)、加藤直樹(立命館高等学校長)、呂 晟九(慶熙高校長)、木村一信(インドネシア事務所長)

■ 安養外国語高校 朴番淳 父兄会長

教育関係者の至大な関心があれば、過去の暗い思考にとらわれない明るく未来志向的な、国家と社会の一分野を担う人材を育成することができ、アジアを一つの共同体として結んで行く主役がAPUより誕生することを期待します。

■ 世和高校 金泳復 校長

国家利己主義から脱皮し、アジア太平洋地域の平和の為に尽くすリーダーを養成するAPUの平和主義教育に期待します。また、韓日両国の学生が共感する問題意識から出発し、問題解決のために協同して探求し、また両国の文化を認め、理解しあうという交流が生まれることを望みます。

■ 五山高校 金容贊(学生)

APUに留学を希望する学生として、APUが各国の学生達と色々な分野での交流を通じて、小さくは大学で、大きくは世界のためになる事を推進されることを期待します。

■ 慶南高校 千誠云(学生)

APUが地域社会との交流を活発化し地域ネットワークの構築の先頭になつて活躍されることを期待します。

■ 明德外国語高校 崔英姫 日本語科長

20世紀が世界を一つに結んでいく過渡期とすれば、21世紀には世界が一つになると言えます。例えば、これからは人間関係においても、どの

国の人なのかより、どのような考え方を持っている人なのかによって結ばれるだろう。今までは「他」と思ってきた外国の異文化に対する理解をより深め、「我」のものとして受け入れるべきだと思えます。つまり韓日両国は、今までのような経済的・物理的交流だけでなく、人的・精神的・文化的交流をもっと大切にする必要があります。

■ 大元外国語高校 李鐘英 校長

近くて遠い両国の関係が一つとなり、アジアを主導するプログラムを開発し、共感を形成するためには言語の理解と精神的交流が深化しなければなりません。世界のアジアを先導する名実相伴う指導者を育てるこ

とに絶え間なく努力されることを期待します。

■ 養正高校 嚴圭白 校長

多様な文化・歴史・宗教等の特性を持つアジア各国の青少年たちが一つのキャンパスに集まり、太平洋各国の言語を学び合い、異文化に対して心からの理解を深めつつ、またアジア・太平洋時代における各領域の政治・経済・文化等諸問題に関して研究・学習することで、各領域での立派な指導者を育成する大学へと発展するよう期待します。

「高校生APEC in九州」開催！



1999年3月13日(福岡)・14日(小倉)・22日(大分)の日程で、「高校生APEC (Asia Pacific Educative Conference) in九州」を開催しました。高校生APECとは高校生によるアジア太平洋地域に関する研究の発表と討論を行うものです。高校生APECは昨年11月に立命館大学京都衣笠キャンパスで行われた第1回に引き続き第2回目となりました。今回の発表は昨年実施した「アジア太平洋懸賞論文・作品大賞」・「韓国懸賞論文」の受賞者が主となって発表を行い、その後会場への来場者とディスカッションを行いました。3つの会場のうち、大分会場を取り上げて報告します。

大分会場のレポート

昨年の懸賞論文の入賞者(韓国から3名、大分から3名)が発表を行い、その後ディスカッションをしました。100名を超える参加者の中には鹿児島県、兵庫県、大阪府、熊本県など遠くからの来場者もあり、熱心に聞き入っていました。発表者は次の通りです。

- 「我らの未来のために」——「大賞」韓国 大邱女子高校2年 クォン・ミソンさん
- 「私達は若いのでより力強く未来に向う」——「銀賞」韓国 富川高校2年 ホン・スンジェくん
- 「平和への第一歩」——「優秀賞」大分県立佐伯鶴城高校2年 堺 晶子さん
- 「21世紀のAPECが進む方向と韓国のビジョン」——「佳作」韓国 世和高校2年 イ・ユジンくん
- 「人間として」——「入選・詩」大分県立中津商業高校2年 中入菜理子さん
- 「真の援助」——大分県立別府鶴見丘高校1年 山村佳奈さん

「大賞」のクォン・ミソンさんは、現在の韓国の経済危機脱出のためには、自国の文化を誇りに思うこと、発展的な未来を開く人材を育成する環境を作ること、世界に向かって夢をいざなうことが大切だと語りました。21世紀を担う自分たちの努力により、光り輝く時代を作り上げるべきであり、最善を尽くしたい、という高校生らしい前向きな意見を述べました。

「優秀賞」の堺さんは、過去を反省し、しかし過去に捕われるだけでなく世界の国々とこれからどのように付き合っていけばよいか、世界に広い視野を向け、世界を知り、未来を担う自分たちが努力することが大切だと述べました。

発表後のディスカッションでは、日韓関係やお互いの国についての印象などをざっくばらんに語りあいました。韓国側からは「日本の若者は、親の世代が築き上げた財産の上にあぐらをかき、努力することを忘れて」「日本の性文化は開放的すぎる」などの辛口の意見も出ました。

翌日、韓国からの高校生は、別府市内を見学の後、APU建設現場見学や別府鶴見丘高校を訪問して交流会の参加などを行いました。高校生APECでは質の高い発表内容に、来場した高校生から「とても勉強になった」「自分ももっとがんばろうと思う」などの意見が寄せられました。会場には多くの報道関係者も訪れ、地元大分の各TV局や新聞等で報道されました。

研究発表会の後、APU説明と立命館大学教員によるAPUミニ講義が行われました。ミニ講義では「アジア太平洋の見方」というテーマで授業が行われました。



「アジア太平洋懸賞論文・作品大賞」で高知県の高校2年生が大賞を受賞

1998年12月18日(金)立命館大学平和ミュージアムにおいて、「アジア太平洋懸賞論文・作品大賞」の表彰式が行われ、全国各地から20名の高校生入賞者が集い、表彰を受けました。この懸賞論文は、立命館大学が企画をし、海外経済協力基金、国際協力事業団、東京都教育委員会、大分県教育委員会、全国高等学校長協会のご後援を頂きました。

論文・短歌・俳句等全体で1378通の応募があり、厚く御礼申し上げます。大賞は、高知道手前高等学校2年生の中山 優さんが受賞。テーマは「平成土佐海援隊見聞録 -アジアの中の日本として-」です。優秀賞は、群馬県・京都府・福岡県・大分県(2名)の高校生5名が、佳作は神奈川県から沖縄県の高校生10名が、入選には北海道から鹿児島県の高校生30名が選ばれました。また学校賞には立命館宇治高等学校、佐伯鶴城高等学校(大分県)、宮崎大宮高等学校(宮崎県)の3校が受賞しました。

審査委員には、2000年に大分県別府市に開学される立命館アジア太平洋大学(設置申請中)の学長予定者の坂本和一教授(立命館大学副総長・経済学部教授)をはじめ、プロ野球選手の古田敦也氏(立命館大学経営学部1988年卒業)、テレビ番組「おしん」で有名な女優の小林綾子さん(立命館大学文学部1995年卒業)があたりました。



【大分・別府事務所だより】

APU開学を控え、地元大分県の皆様の知的・文化的関心にお応えし、地域と大学との交流を深めることを目指して、1998年6月より開催してきました「立命館おいだ講座」は、好評のうちに年度内開催分（全5回）を終了することが出来ました。1999年度も引き続き開講を期待する声が多く寄せられており、地元大分の方々とAPUとの交流をより一層深められる講座を提供できるよう、只今開講を立案しています。



第4回

『21世紀のロボットとメカトロニクス』
『ロボットを優しくする科学技術』

講師：有本 卓（立命館大学理工学部教授）

「21世紀に入って人間社会が直面する ①超高齢化社会、②地球環境問題、③エネルギー問題、④食糧問題 という4大課題への挑戦には、メカトロニクスの科学技術が不可欠であり、そのためには人間の行動の研究が必要である。」という21世紀を展望する、初めての理工系の講座でした。



第5回

『筑紫君磐井と継体大王』
『最近の古墳調査から』

講師：和田 清吾（立命館大学文学部教授）

古代国家形成史上、最も重要な時期として注目されている5世紀後葉から6世紀前葉にかけて、多くの謎に包まれた部分に言及された講座でした。多くの受講者から古代国家に関する様々な視点からの質問や意見が出され、活気あふれた今年度最後の講座となりました。



工事進捗状況について



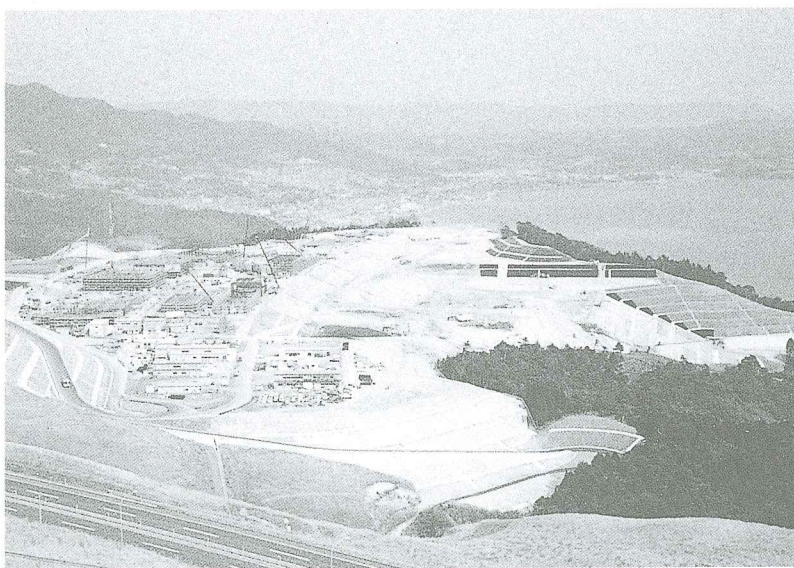
立命館アジア太平洋大学の建設工事は、昨年8月の起工式以来順調に進み、1999年3月末現在で建物工事は全体で約20%の進捗率となっており、各建物は基礎工事及び1階から3階の躯体工事を施工中です。本年7月頃には、建築の上棟を迎える予定です。

また、造成工事では、土工事(総土量約178万m³)は、わずかに数千m³を残すのみとなっています。造成工事全体では、約85%の進捗率です。現在は構内の下水、汚水、電気等の埋設配管工事、また法面仕上げ工事、植栽工事等を順次進めています。

大学周辺の工事についても順調な進捗をみており、大学敷地沿線の県道新設工事は6箇所の橋梁を含め、その全貌が視認できる状況になっており、年末には一般車輛の通行を可能にするべく工事を進めるとの報告をいただいています。

この他、大学へ引込むインフラについても都市ガス、電気(高圧鉄塔工事)、電話線等も順調に進んでいます。

立命館アジア太平洋大学建設現場は、毎日500~600名の作業員が工事に従事しており、今年12月末の建物完成引渡しに向け、安全を第一に心がけ、ますます活況を呈しています。





左から坂本学長予定者、グエン・ミン・ヒエン氏、大南前総長

グエン・ミン・ヒエン ベトナム教育訓練省大臣へ 名誉博士号贈与

1998年12月21日(月) グエン・ミン・ヒエン ベトナム教育訓練省大臣に対して、「立命館大学名誉博士号」が贈呈されました。

ヒエン大臣は、ハノイ工科大学の学長にご就任以来、今日に至るまで、工業の発展、高等教育の国際化、アジア太平洋地域における教育関連機関の国際的協力推進にご尽力されております。

立命館大学とベトナム教育訓練省は、1998年2月に交流協定を締結して以来、きわめて友好的な関係にあり、現在も2000年4月の開学にむけて、立命館アジア太平洋大学への留学生受け入れへの動きが急速に進展しています。

中国・東北財経大学と 協力協定交換式

1999年2月21日(日)、春節で賑わう中国大連市において東北財経大学と協定交換式が行われました。交換式には、東北財経大学からは洋学長、邱東副学長他大学関係者、立命館大学からは、慈道裕治立命館アジア太平洋大学副学長予定者(常務理事・政策科学部教授)、仲上健一APU設置委員会事務局長(政策科学部教授)、曹瑞林政策科学部常勤講師が列席し、式が厳粛に行われました。東北財経大学は、1952年創立、学生数12,000人、経済・経営系を中心に12学部を擁する中国東北部を代表する名門大学です。これまで、立命館大学とは6年間にわたって研究交流が行われて来ました。本協定にもとづいて、今後はさらに教員交流・学生交流・研究交流等の具体化の話し合いが行われました。また、東北財経大学長より立命館アジア太平洋大学への期待と協力の申し出がありました。また、夕刻には、夏徳仁大連市副市長(前東北財経大学学長)主催の晩餐会も行われました。大連市は今中国の都市のなかでも経済的にも環境的にも最も注目されている都市であり、さらに日本との関係の深い都市です。本協定を契機に、より深い交流が期待されます。

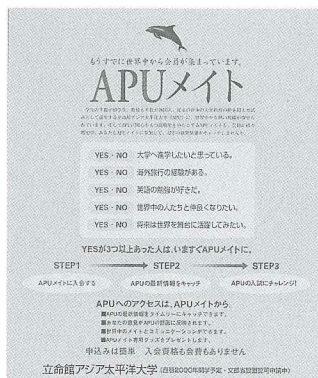
携手合作 共同发展
东财大与日本立命馆大学“联姻”

东北财经大学与立命馆大学在交往六年的基础上正式建立了友好学校关系。双方今后将在交换教员、学生、共同研究、共同举办研讨会或学术会议、文化交流等方面进行广泛合作。东北财经大学党委书记于萍说，我们合作的最终目的是将两所大学共同推向国际，这对于两所学校、两个国家的教育发展、人才培养均具有重大意义。

立命馆大学是日本著名的私立大学，它的教学、科研在国内均处于领先地位。为加强两校之间的友好关系，进一步促进高等教育的国际化，新的篇章。

本报讯(记者孙晓光)2月21日上午，东北财经大学党委书记于萍与来访的日本立命馆大学常务理事慈道裕治互相交换了友好合作协议书，这标志着两所高校的合作关系将揭开新的篇章。

99年2月22日(第1版) 大連日報



APUメイトに入ります

APUの最新情報をキャッチ

APUへのアクセスは、APUメイトから

立命館アジア太平洋大学 国際交流センター

国外・国内からの アクセスを待っています。

2000年4月開学予定の立命館アジア太平洋大学開設事務局では、APUに強い関心を持つ学生を対象として「APUメイト」を募集しています。

アジア太平洋地域に関心を持ち、APUが開学に向けて様々な活動を展開している様子を知りたい、またその大学づくりに向けても意見を出して、自ら取り組みに参加していきたいと考える学生を対象として組織化を行ってきたもので、現在約5000名が登録されており、海外からの登録も始まっています。

APUメイト登録の申し込みは封書・はがき・電話・Eメールで行っており、登録されるとAPUの最新情報が定期的に送られてきます。また、海外からもAPUに関心のある人や留学生入学希望者は、アクセスして情報を得てください。ぜひ、質問・疑問等もお寄せください。お待ちしております。

住所: 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
学校法人 立命館
立命館アジア太平洋大学開設事務局

ホームページ: <http://www.apu.ritsumeikan.ac.jp/>

電子メールと電話: 国外学生からは ml-apu4u@ml.ritsumeikan.ac.jp TEL. +81-75-465-8371
国内学生からは ml-info-apu@ml.ritsumeikan.ac.jp TEL. 075-465-7860